

(19) 日本国特許庁(JP)

(12) 特 許 公 報(B2)

(11) 特許番号

特許第3612589号

(P3612589)

(45) 発行日 平成17年1月19日(2005.1.19)

(24) 登録日 平成16年11月5日(2004.11.5)

(51) Int.Cl.⁷

E 0 4 H 1/04

F I

E 0 4 H 1/04

C

請求項の数 5 (全 12 頁)

(21) 出願番号	特願2001-202299 (P2001-202299)	(73) 特許権者	594077219
(22) 出願日	平成13年7月3日(2001.7.3)		左高 啓三
(65) 公開番号	特開2003-13618 (P2003-13618A)		東京都港区南青山5-12-24-611
(43) 公開日	平成15年1月15日(2003.1.15)	(73) 特許権者	501265847
審査請求日	平成13年12月20日(2001.12.20)		株式会社 アイ・アイ・イー 国際環境研
審判番号	不服2003-21926 (P2003-21926/J1)		究所
審判請求日	平成15年11月12日(2003.11.12)		東京都港南青山5丁目12番24号611
早期審査対象出願		(73) 特許権者	592087164
			有限会社ルネイズム
			東京都港区高輪1丁目23番5号
		(74) 代理人	100109966
			弁理士 伊藤 哲夫
		(72) 発明者	左高 啓三
			東京都港南青山5丁目12番24号611

最終頁に続く

(54) 【発明の名称】 集合住宅

(57) 【特許請求の範囲】

【請求項1】

上下階に位置する梁の天端間の寸法を同一寸法として構築した低層ないし中高層の集合住宅において、該上下の梁を順梁と逆梁とが交互に位置するように繰り返して全体を構成し、該順梁の天端を床面とするスラブと、逆梁の下端を天井面とするスラブとによって住戸空間の高さとし、上記住戸空間の隣接階では、逆梁の下端と面一なスラブの上面を床面とするスラブと、順梁の天端と面一なスラブの下面を天井面とするスラブによって住戸空間の高さとし、隣接上下階における住戸空間の高さを異なる高さに構成してなることを特徴とする集合住宅。

【請求項2】

各住戸の一部或いは全部を2層又は3層としたことを特徴とする請求項1に記載の集合住宅。

【請求項3】

各層の内のいずれか1或いは複数層に物品収納スペースを設けたことを特徴とする請求項2に記載の集合住宅。

【請求項4】

物品収納スペースの一部をエコスペースとしたことを特徴とする請求項3に記載の集合住宅。

【請求項5】

隣接上下階のいずれかを風の吹き抜ける吹き抜け空間としたことを特徴とする請求項1な

いし 4 のいずれかに記載の集合住宅。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、比較的低層から中高層の建築物に於いて、基準階の構造階高を同一寸法とし、その基準階に構築される各住戸空間の天井高を上下の隣接階で異なるように設定し、需要者の多様なニーズに応えることのできる集合住宅に関する。

【0002】

【従来の技術】

従来の集合住宅、事務所建築物或いはそれらの併用建築物等の建築物（以下それらを総称して集合住宅という）は、基準階となるスラブ間寸法が同一であり、従って、各住戸の階高は同一寸法で構成され、各住戸の天井高も同一寸法に設定されている。

それら各住戸の天井高に変化を与えるには、スラブと天井面或いはスラブと床面との間に適宜スペースを形成することにより対応していた。

従って、天井高を有効に確保し、且つ需要者の多様なニーズに応えることのできる異なった高さの天井高を有する集合住宅を積極的に得る考え方は無かった。

【0003】

他方、集合住宅の構造形態から把握すると、床構造梁を逆梁構造とする例は知られている。該逆梁工法はスラブの上面に梁を構築する工法であるが、該工法を採用する理由は、図 9 の従来例に示すように、梁の天端を仕上げ床 A の配置面とし、スラブと該仕上げ床面との間に生じる空間 B を床下収納空間や各種設備機器の配管や配線空間としたり、或いは天井面 C に下方へ突出する梁が存在しないことになるので、天井の一部が低くなる段付き天井ではなく、フラット天井とすることがスラブ構築の段階で可能である等が主な要因であった。

【0004】

更に、上記逆梁工法は、単に所定の階のみに採用するとか、集合住宅全体に採用して建築物を構築しているので、逆梁によって形成されるスラブと順梁で形成されるスラブとを交互に配置するという両者間に相対的な関連性を持たせる考え方は無かった。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】

本発明は、上下の順梁間に配設する中間スラブを逆梁スラブとすることにより、該逆梁スラブを挟んで上下階に位置する住戸の天井高寸法を、各々異なるように設定でき、需要者の多様なニーズに応えることのできる天井高を有する集合住宅を得ることを可能としたものである。

【0006】

また、上下階間に配設する中間スラブを逆梁スラブとしたことにより、逆梁スラブの下方に位置する住戸空間は、その天井高寸法が上方に位置する住戸空間より低くなるが、階高が所定寸法確保できること及び天井面と床面の両面がフラット面となり上下両面に凹凸の無い空間を得ることが可能で、広がりのある空間が得られること等により、有効な天井高寸法を確保することができることになる。

【0007】

他方、上方に位置する住戸空間は、その床面側が逆スラブにより下方に位置するため、当該スラブ面を床仕上げ面とすることにより、天井高寸法の高い住戸空間を得ることを可能とするものである。

上記のように上下階のいずれにしても、天井高寸法を高く設定することができ、多様性のある豊かな立体空間を形成することを可能とするものである。

多様性の一形態として、各住戸を複数層とし、必要となる床面積を増加させると同時に、収納スペースは床面積には算入させない構造形態とし、有効な立体空間を形成することを可能とするものである。

本発明での「層」とは、住戸空間を床（床面積への算入の有無には無関係）で仕切ること

10

20

30

40

50

により上下に生じる別異の空間のことをいう。

【0008】

【課題を解決するための手段】

本発明は、上記課題を解決したもので、その構成は下記の通りである。

上下階に位置する梁の天端間の寸法を同一寸法として構築した低層ないし中高層の集合住宅において、該上下の梁を順梁と逆梁とが交互に位置するように繰り返して全体を構成し、該順梁の天端を床面とするスラブと、逆梁の下端を天井面とするスラブとによって住戸空間の高さとし、上記住戸空間の隣接階では、逆梁の下端と面一なスラブの上面を床面とするスラブと、順梁の天端と面一なスラブの下面を天井面とするスラブによって住戸空間の高さとし、隣接上下階における住戸空間の高さを異なる高さに構成してなる集合住宅を特徴とする。

10

【0009】

また、各住戸の一部或いは全部を2層又は3層とした集合住宅を特徴とし、その各層の内のいずれか1或いは複数層に物品収納スペースを設けた集合住宅を特徴とする。

更に、該物品収納スペースの一部をエコスペースとした集合住宅を特徴とする。

【0010】

また、隣接上下階のいずれかを風の吹き抜ける吹き抜け空間とした集合住宅を特徴とする。

【0011】

【発明の実施の形態】

20

本発明を実施例に基づいて以下に説明する。

【実施形態1】

図1は、中層集合住宅の断面図を示している。

本実施形態の集合住宅は、地下1階、地上8階建ての集合住宅1を示し、地下1階及び1階はエントランスホール、駐車場及びその関連スペース、2階～8階の基準階は住戸とされている。

地下1階の駐車場は、機械式2層の駐車場とし、1階は上層階へのアプローチとなるエントランスホール2、階段3、エレベータ4、地下一階の駐車場へのターンテーブルスペース及び駐車場5等が配設されている。

基準階は、上記階段3、エレベータ4及びその前面ホールや通路となる共有スペース6としている。該共有スペース6を挟んで各住戸7が対称に配置されている。

30

【0012】

該集合住宅1の構造計画に於いて、その経済性、外観上等より地下階や1階等を除いた基準階の上下の梁の天端間の寸法Hは一定としている。

1階の床スラブ8と地中梁9とはT形梁となるように順梁工法により構築され、該床スラブ8の仕上げ表面と地中梁9の仕上げ天端とは面一として仕上げています。2階の住戸の床スラブ10と1階の梁11とは、床スラブ10の下面と1階の梁の下面とが面一となる逆梁工法によって構築されている。

【0013】

そして、3階の住戸となる床スラブ12と2階の梁13とは順梁工法により構築され、床スラブ12の表面と梁13の仕上げ天端とは面一として仕上げ、4階の住戸の床スラブ14と3階の梁15とは逆梁工法により構築されている。

40

上記のように順梁によるスラブと逆梁によるスラブとを交互に構築している。従って、基準階の梁天端間が同一寸法であっても、例えば3階と4階とを例にとるならば、その各々の階のスラブ間寸法H1、H2は異なることになる。

【0014】

本実施例では、基準階の上下の梁の天端間の寸法Hを同一寸法とし、偶数階の床スラブ面を逆梁工法による床面として構築し、当該偶数階のスラブ間寸法H2を高くなるように構築し、奇数階の床スラブを順梁工法による床面として構築しているので、奇数階のスラブ間寸法は偶数階のスラブ間寸法より低く構築されることになる。

50

【 0 0 1 5 】

以下に、基準階を偶数階と奇数階とに分けて、その平面計画の1実施例を説明する。

図2、3は、偶数階の居住空間の1、2層の平面図である。図2は、1層目となる該居住空間の基準床部分で、出入り口となる玄関16、ホール17、リビングダイニングキッチン18、トイレ19及び倉庫スペース20とを形成している。21はベランダである。

図3は、居住空間の2層部分の上層側床部分を示す平面図で、メインベッドルーム22、サブベッドルーム23、浴室・洗面所・トイレ等の各種設備ルーム24を配設している。2層部分の外部にベランダ25を設けることも可能である。

【 0 0 1 6 】

上記玄関16、ホール17、リビングダイニングキッチン18等の一部を吹き抜けとし、
トイレ19及び倉庫スペース20の上方部を上層階としている。倉庫スペース20への収
納物の出し入れは上層階のメインベッドルーム22の床に形成した出入口（図3の点線位
置）より可能となる。該上層階へは、該リビングダイニングキッチン18の側壁部に形成
した階段26及びその出入口をホール17側と2層目の通路側に面して形成した昇降リフ
ト27を利用してアクセスすることになる。

上記昇降リフト27は、主として身体障害者や老人等が使用することになる。

【 0 0 1 7 】

図4、5は、奇数階の居住空間の平面図である。図4は、該居住空間の基準床部分で、出
入り口となる玄関28、ホール29、リビングルーム30、設備スペース31、倉庫ス
ペース32及び他の倉庫スペース33等を形成している。34はベランダである。

図5は、居住空間の上層階側を示す平面図で、ベッドルーム35、ダイニングキッチン3
6、浴室・洗面所・トイレ等の各種設備ルーム37を配設している。

【 0 0 1 8 】

上記リビングルーム30の一部を吹き抜けとし、設備スペース31、倉庫スペース32及
び倉庫スペース33の上方部を上層階としている。上層階へは、該リビングルーム30に
形成した階段38及び該階段の側壁に沿って形成した壁付き昇降リフト39を利用してア
クセスすることになる。

上記昇降リフト39は、主として身体障害者や老人等が使用することになる。

【 0 0 1 9 】

住居の断面計画については、図1の基準階となる3階と4階に基づいて説明する。3階及
び4階の梁天端間の構造階高Hは、4、800mmの同一寸法で構築している。

3階の床面はT形梁の順梁工法により構築しているので、梁せい寸法を800mmとすると、3階床スラブ12の表面と4階床スラブ14の下面間の寸法H1は4、000mmとなる。従って、吹き抜け構造となっているリビングルーム30の天井高は、床面を大引、根太、防振材及び床仕上げ材等による仕上げ厚寸法を150mmとすると、3、850mm前後となる。

【 0 0 2 0 】

また、下層階側に形成した倉庫スペース32、33は、その天井高を1、400mm以内に納めれば床面積に算定しない（建設省の通達）とされているので、当該部分の床仕上げ面を転し床程度とするならば、上層階の床厚寸法を150mmとしても、上層階のベ
ッド
ルーム35や設備ルーム37等の天井高は、2、400mm前後となり、十分な天井高を確保することができる。

従って、基準床側及び上層階側の2層目側とも十分な天井高を確保することができるとともに、床面積に算定されないが実質的に有効な収納スペースを十分に確保することが可能となる。

【 0 0 2 1 】

上記倉庫スペース32、33は、その天井高を1、400mmより僅かに低く設定できるので、少し屈む程度で物の出入ができ、従来の逆梁工法によって形成した梁高内に納めた床下収納庫とは異なり高さを有し利用勝手が極めて良い。また、床面より上方に形成されるので、その壁面等に換気手段を容易に形成することができ、湿気や防虫対策等が容易で

10

20

30

40

50

、収納物にかびや虫が発生することの心配を解消させることができる。

【 0 0 2 2 】

4 階の床スラブ面は逆梁構造となっているので、上記同様、床スラブ厚を 1 5 0 m m、梁せい寸法を 8 0 0 m m とすると、4 階のスラブ間寸法 H 2 は 5、3 0 0 m m となる。

従って、吹き抜け構造となっているリビングダイニングキッチン 1 8 の天井高は、床面の仕上げ寸法を 1 5 0 m m とすると 5、1 5 0 m m 前後となる。また、基準床側の倉庫スペース 2 0 の天井高寸法を上記同様に 1、4 0 0 m m 以内に納めれば、上層階の床厚を 1 5 0 m m としても、上層階のメインベッドルーム 2 2、設備ルーム 2 4 等の天井高寸法は、3、7 5 0 m m 前後となり、十分な天井高を確保することができる。

【 0 0 2 3 】

そこで、該倉庫スペース 2 0 を更に 2 層とし、当該天井高を各々 1、3 0 0 m m 程度の高さで、その両者間の床厚を 1 5 0 m m とすると、上層階のメインベッドルーム 2 2 等の天井高寸法は、2、4 0 0 m m 前後となり、通常の天井高を確保することができ、且つ収納スペースを 2 倍とすることが可能となる。

【 0 0 2 4 】

また、上記 2 層に形成した倉庫スペース 2 0 のいずれか一方側をエコスペースとし、様々なエコシステムやエコ製品を配設及び貯蔵する施設とすることも可能である。

例えば、生ごみの処理・再生設備、活性炭の使用による空気正常化手段、マイナスイオン発生装置、水の浄化・再利用手段等のシステムが考えられ、それらのための材料の貯蔵施設ともなる。

【 0 0 2 5 】

逆梁側を床面として有する住居は、床面が梁より下がることになるので、該住居のリビングダイニングキッチン 1 8、浴室・洗面所・トイレ等の各種設備ルーム 2 4 等への配管は、本実施例では、給・排水の立ち上がり管を外部の共有スペース側に形成し、給・排水枝管は居住空間の梁上端側の壁面を貫通し、界壁側に沿って水平方向へ配管される。従って、折曲部の少ない、且つ修理や取り替えの容易な位置での配管システムを構築することができる。

【 0 0 2 6 】

【実施形態 2】

図 6 に示す断面図は、他の実施例を示す断面計画で、基準階の梁天端間の寸法 I は、3、6 0 0 m m の同一寸法階高に構築している。

以下に、2 階と 3 階の一ユニットに基づいて説明する。

上記実施形態 1 と同様、奇数階と偶数階とで、その平面計画を 1 対のものとして計画している。

2 階の床面は T 形梁として構築し、梁せい寸法を 8 0 0 m m とすると、2 階のスラブ間寸法 I 1 は 2、8 0 0 m m となる。従って、居室となる基準側のリビングルームやダイニングキッチン等の天井高は床面の仕上げ寸法を考慮しても 2、6 5 0 m m 前後となり、通常の構築物として、十分な天井高を確保することができる。

【 0 0 2 7 】

他方、3 階の床面は逆梁構造となっているので、上記同様、床のスラブ厚を 1 5 0 m m、梁せい寸法を 8 0 0 m m とすると、3 階のスラブ間寸法 I 2 は 4、1 0 0 m m 前後となる。

従って、吹き抜け構造となっているリビングルームやダイニングキッチン等の天井高は床面の仕上げを考慮しても 3、9 5 0 m m 前後となる。また、1、2 層のレイアウトである図 4、5 のものを採用すると、下層階となる側の倉庫スペース 3 2、3 3 の天井高を 1、4 0 0 m m 以内に納めれば、上層階の床厚を 1 5 0 m m としても、上層階のベッドルーム 3 5 やダイニングキッチン 3 6 等の天井高は、2、4 0 0 m m となり、十分な天井高を確保することができる。

【 0 0 2 8 】

上記実施例では、基準階の上下の梁の天端間の寸法を 3、6 0 0 m m とし、従来の建築物

10

20

30

40

50

の階高寸法と大差無い高さとしている。そして、天井高の有る平面的な居住空間と２層を有する居住空間とを一ユニットとして計画している。一ユニットの奇数階と偶数階の上下関係の組み合わせは、実施形態１のものとは逆に構築している。

【００２９】

【実施形態３】

上記図６の断面図に示すように、２層を有する住居空間と十分な天井高を有する住居空間とを上下階で一ユニットとしているが、その内のいずれかの階の空間を共有空間Ｊとすることも可能である。

共有空間Ｊとしては、各種庭園や運動施設等の外的空間とすることもできるし、各種集会スペース、室内運動施設等の適宜内的空間とすることも可能である。

10

当該空間は、特定居住者の専有空間とすることも可能である。

【００３０】

更に、それら空間を風Ｗの吹き抜ける吹き抜け空間とすることも可能で、建物にかかる風圧力を軽減させたり、近隣に対するビル風防止としての機能を持たせることも可能である。

また、居住者はその吹き抜け空間により様々な方向からの通風、採光及び眺望を得ることが可能と成った。

【００３１】

【実施形態４】

図７に示す断面図は、他の実施例を示す断面計画で、基準階の梁天端間の寸法Ｋは、

20

以下に、２階と３階の一ユニットに基づいて説明する。

上記実施形態１～３と同様、隣接する奇数階と偶数階とで、その平面計画を１対のものとして計画している。

２階の床面はＴ形梁として構築し、梁せい寸法を８００ｍｍとすると、２階のスラブ間寸法Ｋ１は５、２００ｍｍとなる。従って、居室となる基準側のリビングルームやダイニングキッチン等の天井高は床面の仕上げ寸法を考慮しても５、０５０ｍｍ前後となり、上記実施形態１の図２、３に示す１、２層の平面図を採用することができ、且つ十分な天井高が確保される。

【００３２】

30

他方、３階の床面は逆梁構造となっているので、上記同様、床のスラブ厚を１５０ｍｍ、梁せい寸法を８００ｍｍとすると、３階のスラブ間寸法Ｋ２は６、５００ｍｍ前後となる。

従って、吹き抜け構造となっているリビングルームやダイニングキッチン等の天井高は床面の仕上げを考慮しても６、３５０ｍｍ前後となる。また、図２、３に示す１、２層の平面図を採用すると、基準床側の倉庫スペース２０の天井高寸法を上記同様に１、４００ｍｍ以内に納め、且つ倉庫の床面を１５０ｍｍで仕上げれば、上層階の床厚を１５０ｍｍとしても、上層階のメインベッドルーム２２、設備ルーム２４等の天井高寸法は、４、８００ｍｍ前後となり、十分な天井高を確保することができる。

【００３３】

40

そこで、該倉庫スペース２０を更に２層とし、当該天井高を各々１、４００ｍｍ程度の高さで、倉庫の床面を１５０ｍｍで仕上げ、その両者間の床厚を１５０ｍｍとすると、上層階のメインベッドルーム２２等の天井高寸法は、３、４００ｍｍ前後となり、十分な天井高を確保することができる。

また、上記２層に形成した倉庫スペース２０のいずれか一方側をエコスペースとして使用できることは言うまでもない。

【００３４】

【実施形態５】

本発明の床スラブとしてリブスラブ、ボイドスラブ等のアンボンドＰＣスラブを使用し、小梁を省略することができるが、住戸の奥行きが延びて住戸の居室内に梁を形成する必要

50

がある場合は、逆梁部を有する床面や順梁部を有する天井面に梁が突出形成されることになる。しかし、該梁の方向を、上記レイアウト例で示した倉庫スペースやリビングルーム空間と倉庫スペースとの境目、上層階へ行く階段の下部側空間等に配置させることにより、居住空間の天井高に影響させることなく、住戸を水平方向に延設することが可能となる。

【0035】

【実施形態6】

上記奇数階と偶数階の上下に隣接する一ユニットを同一居住者が専有するメゾネット形式の住戸空間とすることもでき、基準階の2階分を実質的に3層～5層等の各々異なった天井高を有する立体空間を享受することができ、収納スペースの多い、且つ通風、採光及び眺望の異なる空間を得ることが可能であり、豊かな住生活を得ることが出来る。

10

【0036】

【実施形態7】

図8の集合住宅は、該集合住宅の断面計画を、左右の階層をずらして構築したものである。この計画は、居住空間への出入口の位置を高さ方向で変化させることにより、当該部分での居住者の対面を完全に防止し、且つ、共有通路より室内が覗かれる可能性を少なくし、プライバシーの確保が向上する。

また、外観的にも当該集合住宅を可視する角度によって異なった印象を与えることが可能である。

【0037】

20

なお、上記各実施形態では集合住宅に沿って説明したが、その用途は事務所、店舗、その他の様々な用途が考えられる。

また、奥行方向（桁行方向）の構造形式は架構式或いは壁式のどちらも適宜採用されることは言うまでもない。

【0038】

【発明の効果】

本発明の集合住宅は、上下の梁の天端間の寸法が一定であるにも係わらず異なった天井高を有する立体空間をその上下階に於いて形成することが可能となった。また、上下の階をセットとした部材の繰り返し使用が可能であり、効率的で、プレキャスト化も可能である。

30

【0039】

本発明は、上記実施形態に基づく構成より成り、集合住宅に於ける居住空間として、上下の梁の天端間の寸法を抑えながら、天井高の高い立体空間の豊かな住居空間を得ることが可能となった。

また、逆梁スラブと天井高1、400mm以下の床面積に算入されない高さの空間を倉庫空間としたことにより、収納スペースを大幅に増加させ、収納スペースの多い住居環境を得ることが可能となった。

【0040】

更に、逆梁を挟んで上下に形成した住居空間は上下の梁の天端間の寸法を一定としながら、その上下の階は各々スラブ間隔の異なった空間を得ることができ、建物の外観は同一であっても、その内部空間においては垂直方向に変化の富んだ立体空間を得ることが可能となり、また、その内部空間の天井高を変えることにより多くの異なった立体空間を得ることが可能となった。更に、その上下の梁の天端間の寸法を変えることにより、より多くの住居空間のバリエーションを得ることが可能となった。また、水平方向においても、上記立体空間を組み合わせることにより、そのレイアウトの多用性を得ることが可能となった。

40

上記により、需要者の多様なニーズに適合する住居空間を得ることが可能となった。

【0041】

また、上記住戸ユニットのいずれか、好ましくは天井高の低い側の空間を外的空間となる庭園スペース、運動スペース等や、集会スペース等の適宜共有内的空間とすることも可能

50

である。更に、それら空間を風の吹き抜ける空間とすることも可能であり、建物にかかる風圧力を軽減させたり、近隣に対するビル風防止としての機能を持たせることも可能である。

この形態によれば、それらの空間を居住者の専有の空間とすることも、共有の空間とすることも可能である。

【図面の簡単な説明】

【図 1】本発明の集合住宅の 1 実施例となる断面図。

【図 2】本発明の集合住宅の 1 実施例となる基準階の基準床の平面図。

【図 3】本発明の集合住宅の 1 実施例となる基準階の 2 層部分の平面図。

【図 4】本発明の集合住宅の他の実施例となる基準階の基準床の平面図。

10

【図 5】本発明の集合住宅の他の実施例となる基準階の 2 層部分の平面図。

【図 6】本発明の集合住宅の他の実施例となる断面図。

【図 7】本発明の集合住宅の他の実施例となる断面図。

【図 8】本発明の集合住宅の他の実施例となる断面図。

【図 9】集合住宅の従来例の断面図。

【符号の説明】

1・・・集合住宅

2・・・エントランスホール

3・・・階段

4・・・エレベータ

20

5・・・駐車場

6・・・共有スペース

7・・・住戸

8・・・1 階床スラブ

9・・・地中梁

10・・・2 階床スラブ

11・・・1 階梁

12・・・3 階床スラブ

13・・・2 階梁

14・・・4 階床スラブ

30

15・・・3 階梁

16・・・玄関

17・・・ホール

18・・・リビングダイニングキッチン

19・・・トイレ

20・・・倉庫スペース

21・・・ベランダ

22・・・メインベッドルーム

23・・・サブベッドルーム

24・・・設備ルーム

40

25・・・ベランダ

26・・・階段

27・・・昇降リフト

28・・・玄関

29・・・ホール

30・・・リビングルーム

31・・・設備スペース

32・・・倉庫スペース

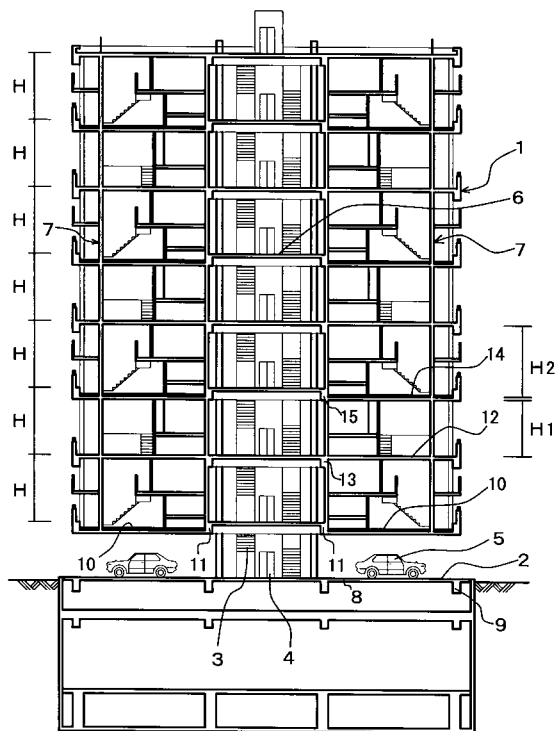
33・・・倉庫スペース

34・・・ベランダ

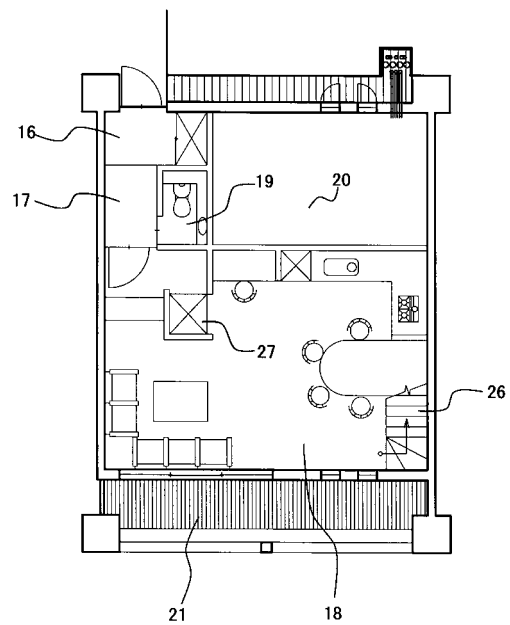
50

- 35・・・ベッドルーム
- 36・・・ダイニングキッチン
- 37・・・設備ルーム
- 38・・・階段
- 39・・・昇降リフト

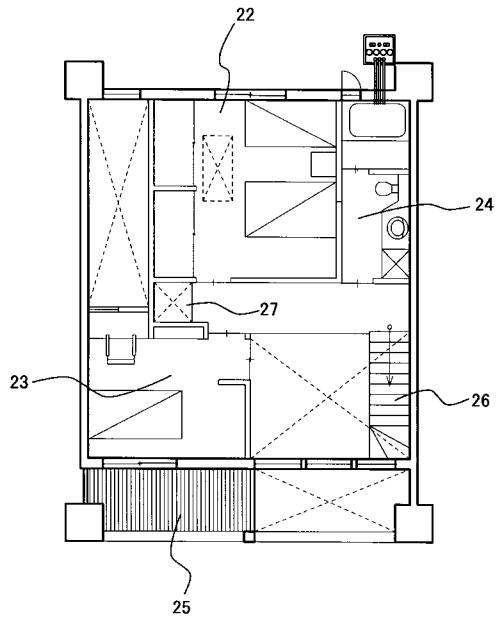
【図1】



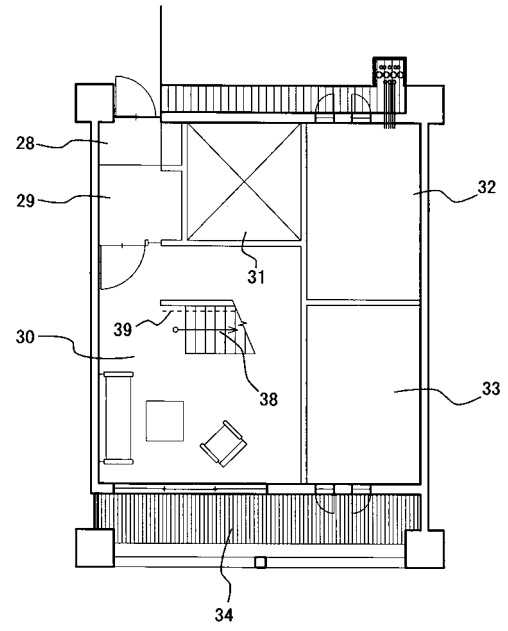
【図2】



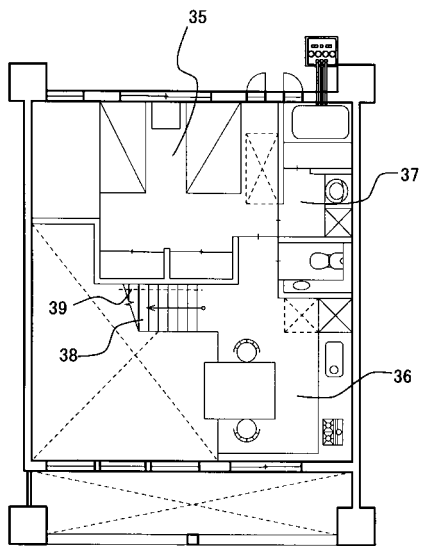
【図 3】



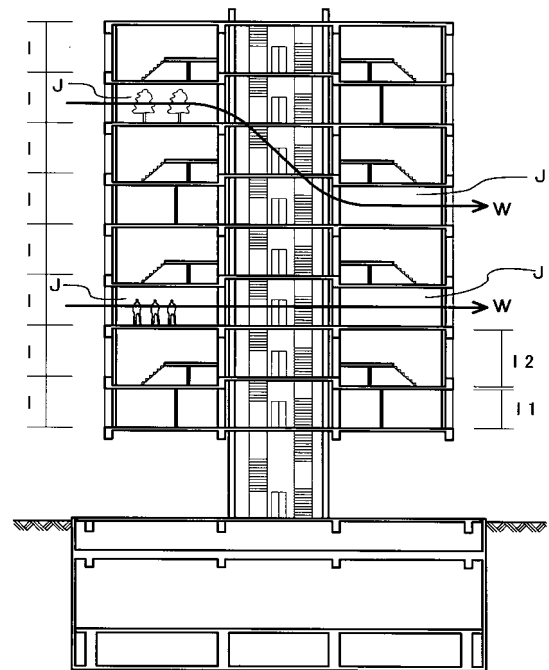
【図 4】



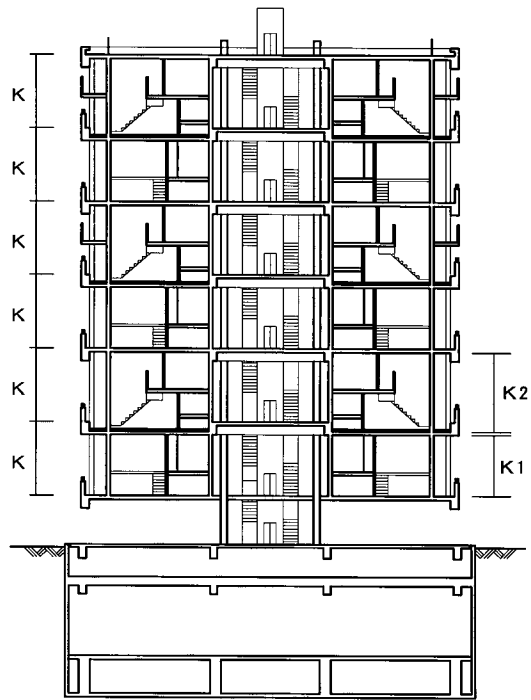
【図 5】



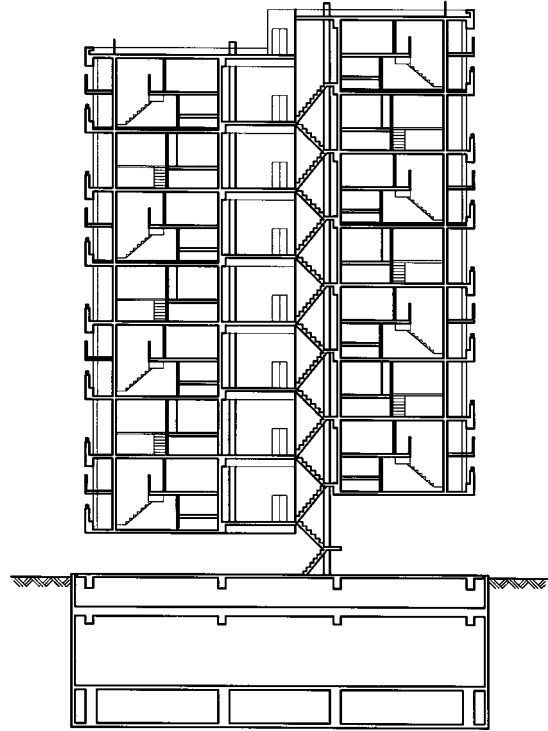
【図 6】



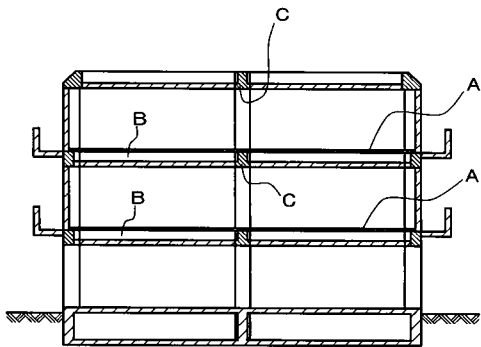
【図 7】



【図 8】



【図 9】



フロントページの続き

合議体

審判長 木原 裕

審判官 青山 敏

審判官 小山 清二

(56)参考文献 特開2000-291197(JP,A)

特開昭62-86239(JP,A)

特開2000-27465(JP,A)

特開平7-158918(JP,A)

特開平7-139197(JP,A)